

入れ歯でハッピーライフ

伊 藤 圭 一

明倫短期大学 歯科技工士学科

Quality of Life and Denture

Keiichi Ito

Department of Dental Technology, Meirin College

要旨

義歯に対する患者さんの直接的な訴えは「よく咬めること」「見た目に自然であること」であり、その要因を満たすことが精神的な満足感につながると説明されている¹⁾。今回は、「よく咬める」「見た目に自然」な義歯について、技工ステップの中から人工歯排列を中心に述べてみたい。さらに、本学歯科技工士学科専攻科生体技工専攻で実施している患者担当制による臨床技工実習の様子も紹介する。

キーワード：義歯，患者，精神的な満足感

Keywords：Removable denture, Patient, Emotional satisfaction

1. はじめに

義歯製作には専門的な知識と技術が必要であるが、ただ製作するだけであれば、それほど難しい作業ではない。しかし、義歯製作の目的は、患者さんが不自由なく食事をするためであり、審美的な回復を図ることである。本学には、附属歯科診療所が併設されていることから、歯科技工士も日常的に患者さんとふれあう機会を多く持つことができる。患者さんと会話し、診療を間近で見ることによって、患者さんが満足する義歯製作の「難しさ」と「責任感」を実感した。

2. 義歯に対する患者さんの要望と不満

「よく咬めること」、「見た目に自然であること」、「痛くないこと」などが患者さんの要望として挙げられるが、要望を満たさない場合は不満を感じる結果となる（図1）。不満を感じる場合は、満足できる義歯を新たに求めるであろうし、場合によっては、外出時以外は義歯の使用を控えることも考えられる。義歯を患者さんに満足していただくには、患者さんが抱く要

望を、義歯を製作する歯科技工士が知る必要があると考える。

入れ歯のなやみ・・・。

- 合わない
- 痛い
- 噛めない
- 見た目がよくない
- 入れ歯は使いたくない

図1. 患者さんが抱える悩み

3. 審美性を考慮した人工歯排列について

咀嚼、発音、審美性に直接関係ある人工歯排列ならびに歯肉形成は、印象採得、咬合採得とともに重要な

入れ歯の個性について

～見た目（審美性）の回復～



男性的

- 力強さ
- 直線的に

女性的

- 優しさ、柔らかさ
- 丸みをつけて

図2. 審美性を考慮した排列

ステップで、前歯部は特に審美性や発音に重点が置かれる。そのため、前歯部人工歯は、性別Sex、個性Personality、年齢AgeのSPA三要素を加味して、選択される¹⁾。

患者さんが男性の場合は、力強さを表現するために、直線的に前歯部を排列し、一方、女性の場合には、優しさや柔らかさを表現するために、スマイルラインを強調するなど審美性を考慮して、個性的に人工歯排列を行うことがある。人工歯を選択する際にも、男性の場合は角のある形態、女性の場合には、丸みのある形態を選択する(図2)。

4. 臼歯部人工歯排列について

臼歯部人工歯排列は咬合と咀嚼機能の回復に重点が置かれる。

1) 咬合が不安定な症例

咬合が不安定な場合は、左右、前後、斜めから咬みこむことにつながり、義歯を不安定にさせる要因となる。義歯が不安定になると、義歯がずれて痛みが出やすくなり、強くあたる箇所は外傷の原因にもなる。そして長期間、不適合な義歯を使用した場合には、顎堤の吸収にもつながることになる。この対処方法として、無咬頭歯を用いた人工歯排列がある(図3)。無咬頭歯は、人工歯咬合面に加わった咬合力を垂直に作用させることによって義歯の側方移動やそれによって生じる顎堤の損傷を防止すること、ならびに人工歯を理想的な位置に排列することによって義歯の安定を確保することなどを主目的として使用され¹⁾、咬合にズレが生じた場合も、咬む位置に融通性があるため、咬合のわずかなズレに対応ができる。

入れ歯が安定するために①

～人工歯の並べ方～

■噛み合わせが不安定な場合。

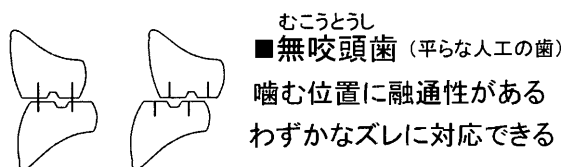


図3. 義歯安定のために無咬頭歯を用いる

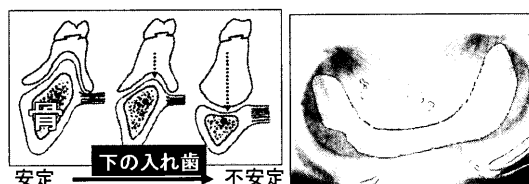
2) 顎堤が高度に吸収している症例

顎堤が高度に吸収している場合も、義歯を不安定にさせる要因となる(図4)。その際の対処法として、義歯に加わる側方力を排除するように、リングライズドオクルージョンと呼ばれる咬合様式で人工歯排列を行うことがある。リングライズドオクルージョンの咬

合理論には、Pound法とPayne法などがあるが、現在は二つの理論を区別することなく、咬合力を舌側化して義歯の安定を図る咬合様式を総称してリングライズドオクルージョンと呼ばれている(図5)²⁾。この排列方法の特徴は、中心咬合位ならびに側方咬合位における頬側咬頭間に間隙を設けることと、中心咬合位において片側で5点のセントリックストップを付与することにある。

入れ歯づくりが難しい条件

■顎の骨がやせている



入れ歯が不安定になりやすい

図4. 顎堤の高度な吸収が義歯を不安定にさせる

入れ歯が安定するために②

～人工歯の並べ方～

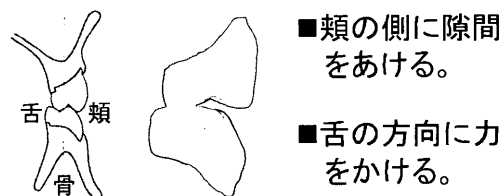


図5. リングライズドオクルージョンについて

5. まとめ

本学歯科技工士学科専攻科生体技工専攻で行う臨床技工実習では多くの見学実習を実施している。おもな目的は、専攻科生が直接患者さんとコミュニケーションを図ることにある。義歯を実際に製作する歯科技工士が、直接患者さんの要望を聴き、義歯の具合を確認することで、義歯製作時に、患者さんの意見を反映し、よりよい義歯製作のための創意工夫がしやすくなると考えている(図6～8)。

歯科技工士も積極的にチェアサイドに足を運び、患者さんの顔が見える距離で直接ことばを交わし、歯科医師、歯科衛生士と共に協力し、患者さんのために最善をつくすことが、患者さんが満足する義歯製作の近道になると考えている。(図9, 10)



図6. 患者さんから直接要望を聴く

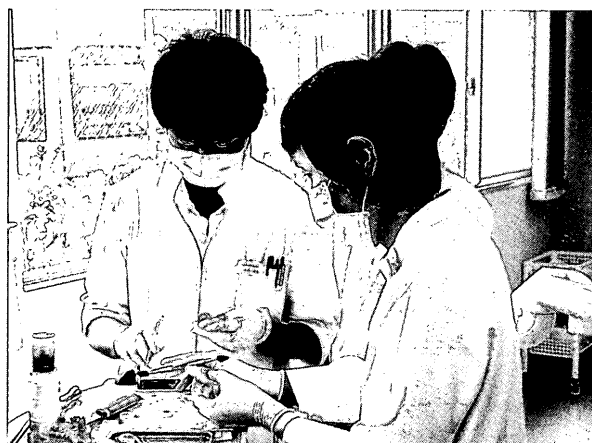


図9. チェアアイドでの技工操作



図7. 患者さんとコミュニケーションを図る



図10. 歯科医師、歯科衛生士との協力体制



図8. 義歯の調子を確認する

文 献

- 1) 豊田静夫, 守川雅男: コンプリートデンチャーその考え方. クインテッセンス出版, 東京, 1994
- 2) 松本直之: リングライズドオクルージョンの実際. 株式会社ジーシー, 1993